

企業短期経済観測調査（道北*地域分）
（調査対象企業：道北*48社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
回答社数構成比 %ポイント
()内は前回調査時予測

(判断D. I.)

	2014/3月	6月	9月	12月	2015/3月	6月	2015/9月までの予測
業況判断 < 良い - 悪い >	17	5	7	4	▲4	(▲10) 13	12
うち製造業	10	0	10	18	27	(36) 27	9
非製造業	18	6	6	0	▲14	(▲24) 8	14
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲9	▲14	2	▲13	▲13	(▲9) ▲9	▲9
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	▲3	0	6	0	▲6	(—) ▲3	—
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	▲3	▲7	▲12	0	▲5	(▲7) ▲5	▲11
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	▲21	▲19	▲21	▲23	▲15	(▲25) ▲13	▲31
資金繰り < 楽である - 苦しい >	5	▲4	0	0	▲2	(—) 6	—
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	20	25	20	25	24	(—) 25	—
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	▲7	▲3	▲10	▲11	▲11	(4) ▲7	▲9
販売価格 < 上昇 - 下落 >	0	5	7	11	9	(9) 0	7
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	38	38	42	40	40	(40) 36	45

(注) 2014年9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014年12月以降は見直し後の新ベース。

「製商品在庫水準判断」および「資金繰り判断」、「金融機関の貸出態度判断」の「2015/9月までの予測」は調査対象外。

全産業、前年度比%、
< >内は前回調査比修正率%

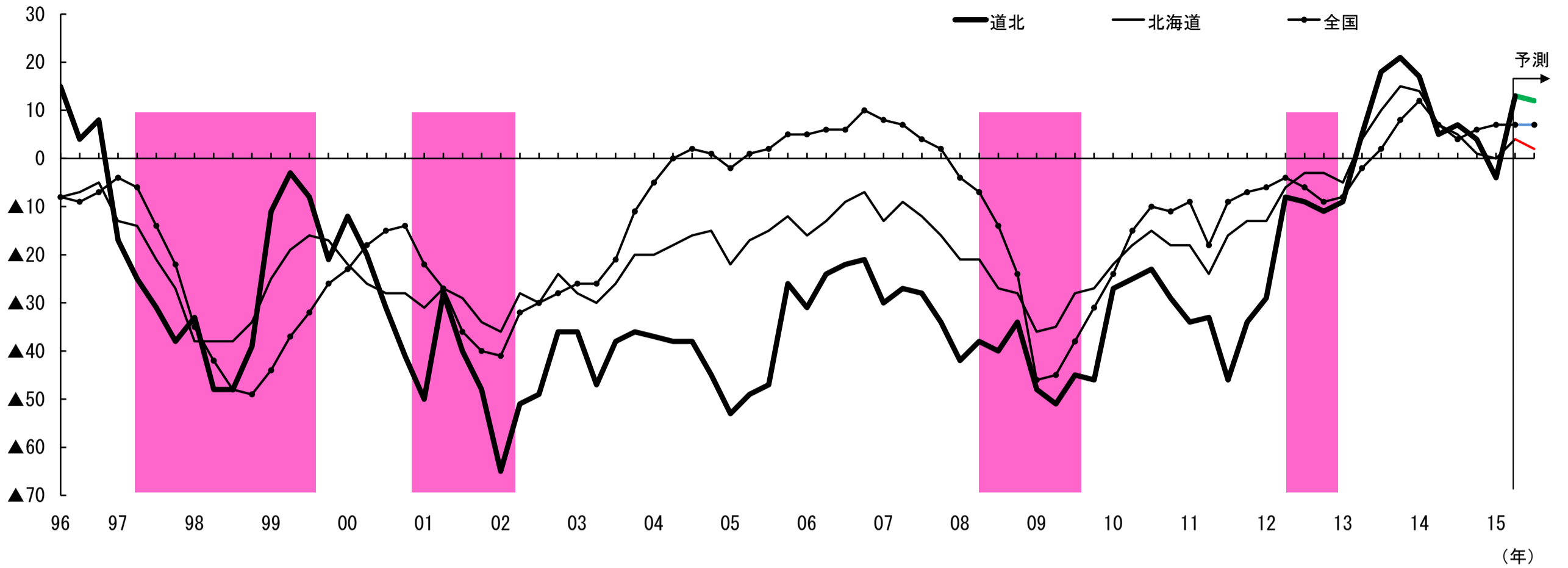
(事業計画)

	2013年度実績	2014年度実績	2015年度計画		
			上期	下期	
売上高	+16.5	-4.3	+2.0 < +1.2 >	+4.1 < +0.7 >	+0.2 < +1.6 >
経常利益	2.3倍	-47.4	+46.4 < +14.8 >	+36.5 < -27.5 >	+52.9 < +75.3 >
当期純利益	5.9倍	-57.0	2.2倍 < +26.0 >	+51.3 < -29.5 >	2.9倍 < 2.3倍 >
設備投資額	+71.7	+97.6	-78.7 < -16.9 >	-66.1 < +2.1 >	-84.4 < -29.7 >

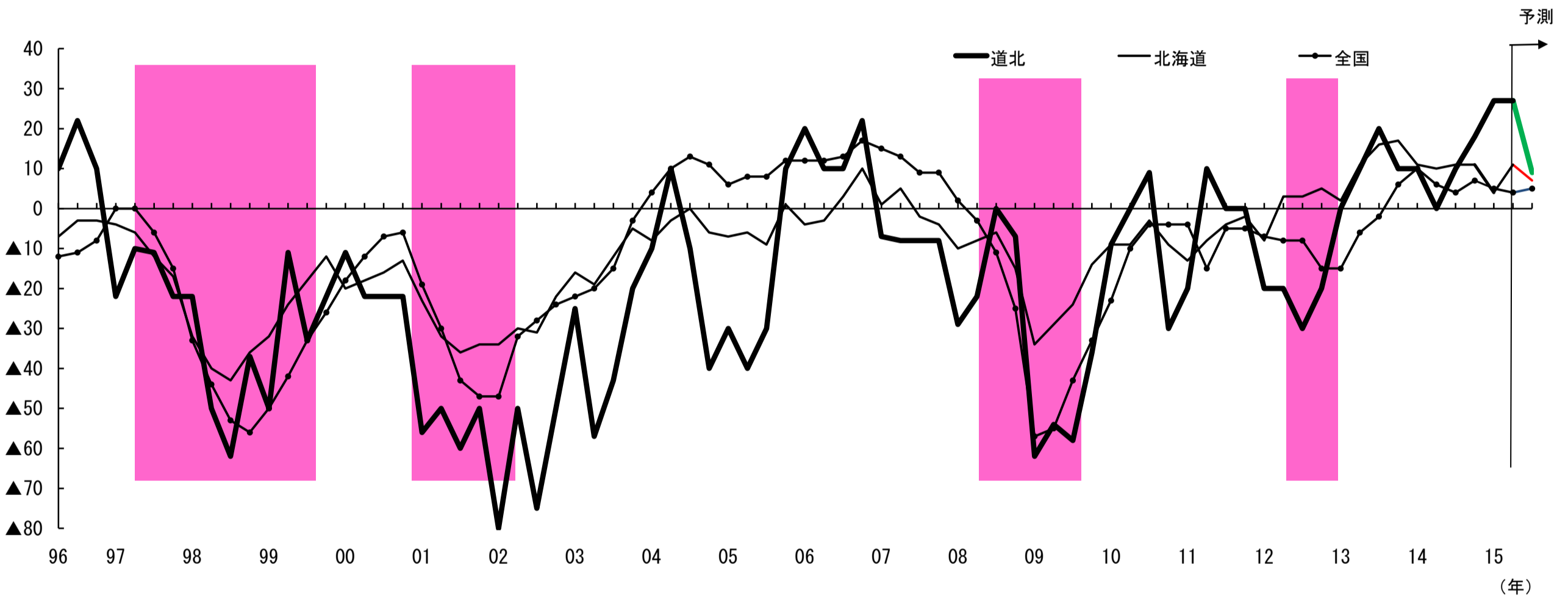
(注) 2013年度実績は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014年度実績、2015年度計画は見直し後の新ベース。

2015年6月短観・調査結果

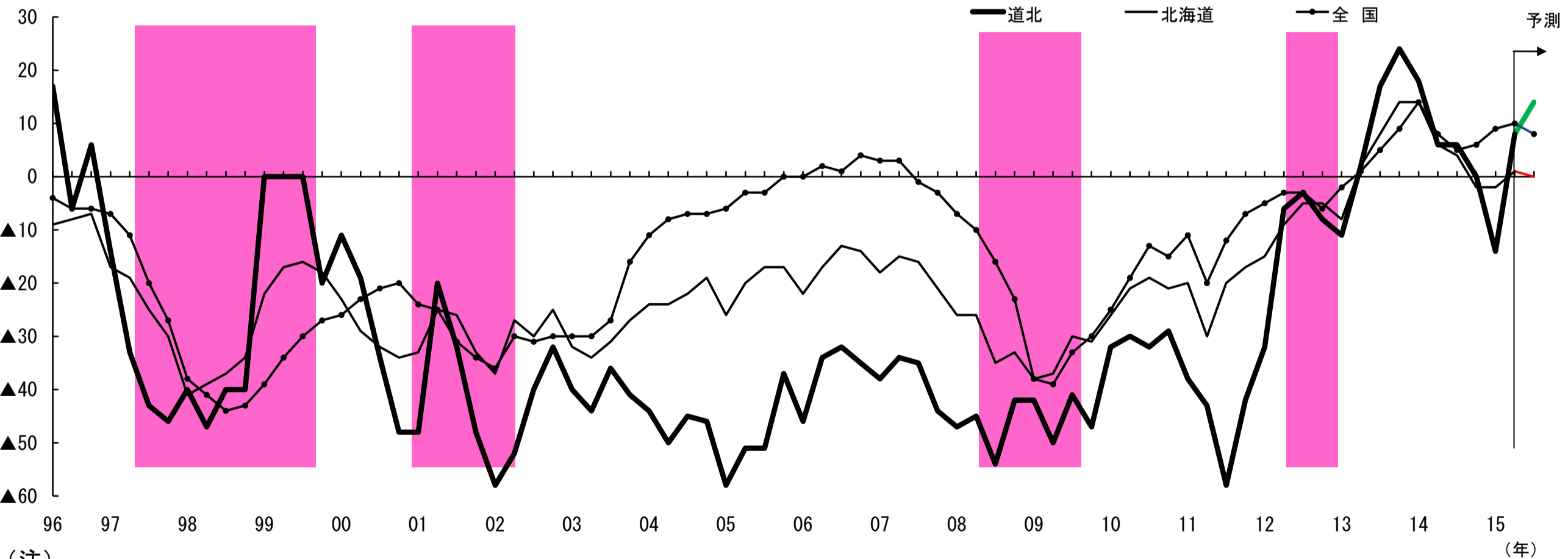
業況判断D. I. (「良い」 - 「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)



同 (非製造業)



(注)
 道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
 2014/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014/12月以降は見直し後の新ベース。
 シャドローは景気後退期 (内閣府調べ)

道北地域の企業短期経済観測調査結果（2015年6月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 48 社（製造業 11 社、非製造業 37 社）
- 回答率 100%（有効回答社数 48 社）
- 回答期間：2015 年 5 月 27 日～6 月 30 日

1. 業況判断 DI

- 6月の業況判断 DI（全産業ベース）は+13 と、前回 3 月調査に比べて改善した（前回▲4、前回比+17 ポイント）。
 - 製造業の業況判断 DI は+27 と、前回調査と同等だった。
 - 非製造業の業況判断 DI は+8 と、前回調査比プラス転化し（前回▲14、前回比+22 ポイント）、これが全体を牽引する形となった。
 - …… 改善したのは、不動産、卸・小売、各種サービスなど。建設は前回調査比では横這いだが、予測比では上振れ。
- 先行きの業況判断 DI（全産業ベース・9月までの予測）については、全体として横這いの予測（+13⇒+12）。
 - 製造業の業況判断 DI は、良い超幅が縮小に転じる見込み（+27⇒+9）。
 - 非製造業の業況判断 DI は、2期連続の改善を予測（+8⇒+14）。

2. 各種判断 DI

- 製商品・サービスの需給については、供給が需要を上回っていると判断する企業（の割合）が前回比若干減少（「製商品・サービス需給判断 DI」〈需要超－供給超〉：▲13⇒▲9）。在庫に関しても、過剰感は引続き少ない状況（「製商品在庫水準判断 DI」〈過大－不足〉：▲6⇒▲3）。設備や人員については、引続き不足と判断する企業（の割合）が多い（「生産・営業用設備判断 DI」〈過剰－不足〉：▲5⇒▲5、「雇用人員判断 DI」〈過剰－不足〉：▲15⇒▲13）。こうした設備や人手の不足感は、先行きにかけても続く見通し。
- 価格動向については、仕入価格が上昇していると判断する先が引続き多い（「仕入価格判断 DI」〈上昇－下落〉：+40⇒+36）一方で、販売価格が上昇していると回答する先は多くはない状況（「販売価格判断 DI」〈上昇－下落〉：+9⇒+0）。先行きに関しては、仕入価格の上昇を予測する先が引続き多い中で、販売価格が上昇するとみる先も若干増加。

- この間、企業を取り巻く金融環境についてみると、金融機関の貸出態度は引き続き緩く、借入金利水準も低下している状況が続いている（「金融機関の貸出態度判断 DI」〈緩い－厳しい〉：+24⇒+25、「借入金利水準判断 DI」〈上昇－低下〉：▲11⇒▲7）。こうした中で、資金繰りもやや改善（「資金繰り判断 DI」〈楽である－苦しい〉：▲2⇒+6）。

3. 事業計画

- 2014 年度の事業実績は、2013 年度の大幅な増収・増益の後、売上高は小幅の減収（▲4.3%）となった一方、経常利益と当期純利益は仕入価格や人件費等コストの上昇を背景に前年比半減（経常▲47.4%、当期▲57.0%）となった。
- 2015 年度の事業計画は、増収・増益の見通しとなっている。特に収益に関しては、販売価格引上げ等収益環境の好転に期待する中で、かなりの改善を見込む計画となっている（売上高+2.0%、経常利益+46.4%、当期純利益2.2倍）。

—— 最近 5 年間でみると、2015 年度の売上高は最も高い水準となる見込みのほか、経常利益は高水準の 2013 年度に次ぐ水準となっている。

以 上